



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 371
February
2024

トピックス

関係機関との協力推進

📌 ネパールとの気候変動予測に関するウェビナーの開催

📌 JICA課題別研修：2023年度 アフリカ総合防災コース

ADRC客員研究員レポート

📌 エーシャス・イファー・モハメッド（モルディブ）

📌 ヒューセーノブ・ハビル（アゼルバイジャン）

国際会議への参加

第22回センチネルアジア運営委員会への参加

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
https://www.adrc.asia

© ADRC 2024

● 関係機関との協力推進

ネパールとの気候変動予測に関するウェビナーの開催

2024年1月10日に開催された、アジア太平洋地域における災害リスク軽減のための気候変動予測に関するウェビナーシリーズ第2回では、ネパールにおける予測研究の成果と気候変動関連データの活用について取り上げられました。このウェビナーでは、気候変動予測先端研究プログラム（SENTAN）プロジェクトによりネパールから2人の専門家が招かれ、情報と経験が共有されました。

ポカラ大学工学部のビナヤ・クマール・ミシュラ教授は、ネパールのバグマティ川における洪水頻度の変化予測について発表しました。カトマンズ渓谷一帯に広がるバグマティ川流域はコカナの上流に位置し、近年壊滅的な洪水が発生するようになりました。そのため、ポカラ大学では、気候変動シナリオ下での洪水流量の変化を評価するために、水文工学センター水文モデリングシステム（HEC-HMS）を設置しました。カトマンズ渓谷の将来の洪水リスクを評価するために、非常に高解像度の非静力学地域気候モデル（NHRCM）の降水出力が用いられました。この研究から、以下のよう
な結果がもたらされました。

- 1) 地域気候モデル（RCM）の降水量出力において、極端な降水量の増加が確認された。
- 2) 将来の気候条件における降水量の極端な増加は、カトマンズ渓谷における洪水リスクの増大を示している。

ネパール政府水文気象局（DHM）の気候課長であるビブティ・ポカレル氏は、DHMが提供する気候サービス情報について説明を行いました。ポカレル氏からは、DHMがネパールの降水量と気温を監視し、干ばつや熱波、異常気象の切迫した情報を提供していることの発表がありました。DHMが作成する気候データは、気候予測に利用されるだけでなく、気候変動に関する国家基本計画や政策に反映されます。さらに、気候サービス情報は、航空、農業、水、エネルギー、保健、防災（DRR）の各部門に提供されています。しかし、気候情報サービスには限界やギャップがあり、ポカレル氏は、研究能力や設備に限界のため、気候情報の質は高くないと指摘しました。例えば、DHMは現在、統計的ダウンスケーリングを利用していますが、動的ダウンスケーリングを利用する能力はないため、SENTANのようなパートナーの支援は非常にありがたいとの発言がありました。

このウェビナーでは、下記の研究者による講演が行われ、ウェビナーで提起された重要なポイントを紹介し、SENTANプロジェクトとDHMネパールのさらなる協力を促しました。

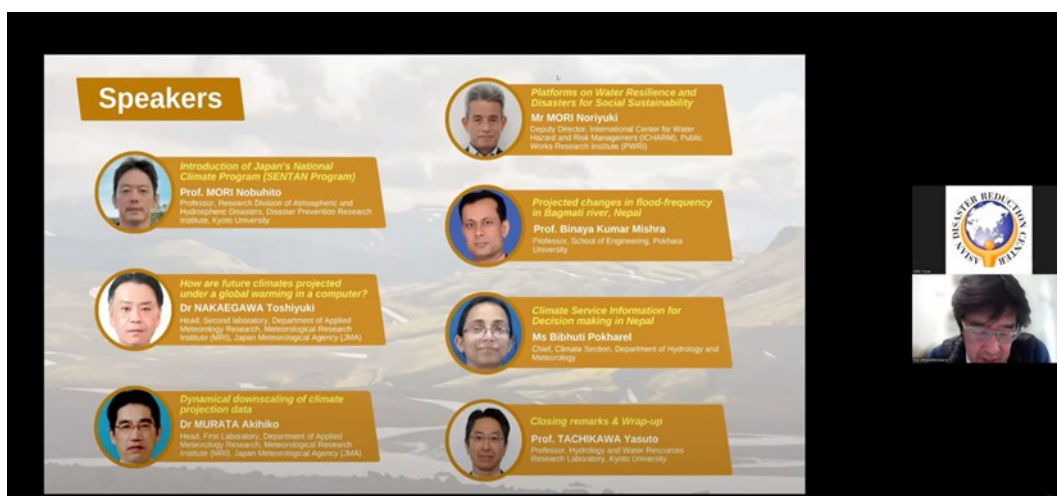
- 1) 京都大学防災研究所 気象・水象災害研究部門 教授 森信人氏
- 2) 気象庁気象研究所応用気象研究部第二研究室 室長 中江川敏行氏

続き

- 3) 気象庁気象研究所応用気象研究部第一研究室 室長 村田明彦氏
- 4) 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) グループ長、及び水のレジリエンスと災害に関するプラットフォーム代表 森範行氏
- 5) 京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 水工学講座 水文・水資源学分野 教授 立川 康人

このウェビナーは、神戸大学都市安全研究センター リスク・コミュニケーション研究部門安全コミュニケーショングループ准教授の小林健一郎氏と、アジア防災センター (ADRC) 主任研究員のジェリー・ポトゥタン氏が共同進行役を務めました。本ウェビナーのビデオ録画と資料は以下のウェブサイトに掲載されています。

<http://www.climate.dpri.kyoto-u.ac.jp/sentan4/webinar/webinar02.html>



ウェビナーの講演者

JICA課題別研修：2023年度 アフリカ総合防災コース

ADRCは、2023年12月5日から2024年1月29日にかけて、JICA課題別研修「アフリカ総合防災2023」コースをJICA関西との協力により実施しました。研修は遠隔研修と来日研修によるハイブリッド形式で行われ、アルジェリア、コートジボワール、エジプト、ケニア、リベリア、マラウイ、モザンビーク、セネガル、シエラレオネ、南スーダン、ジンバブエ、カーボベルデの12か国から13名の防災担当行政官が参加しました。

本研修は、各国における災害対策を推進するために、地方防災計画案の策定および実践方法の習得を目指すものです。研修員は講義や現地視察、防災タウンウォッチングや地方防災計画案策定の演習を通じて、対象都市の災害対策を検討しました。研修実施にあたり、ご協力いただいた関係機関の担当者、大学の皆様に厚く御礼申し上げます。



ADRC小川理事長によるタウンウォッチング

対象都市の災害対策を検討しました。研修実施にあたり、ご協力いただいた関係機関の担当者、大学の皆様に厚く御礼申し上げます。

●ADRC客員研究員レポート

エーシャス・イファー・モハメッド (モルディブ)

アッサラーム・アライクム (みなさまに平安がありますように)。

私はモルディブから来ました、イファーと申します。モルディブの国家防災局 (NDMA) で緊急事態のオペレーションなどの業務を担当しています。私は、2021年1月24日に災害管理のキャリアをスタートしました。現職に任命される前は、緊急対応官のポストを務めていました。

NDMAの目的は、緊急事態や災害に備え、強靱な国づくりを目指すことです。またNDMAは、災害リスクの特定と軽減、コミュニティにおける備え、総合的な対策活動、復旧プロセスの検討、より包含的な対応策の実施に関する活動を行っています。

モルディブは標高の低い小さな島々から形成される国で、その平坦な地形から国全体が物理的に災害に対しての脆弱性を抱えています。またモルディブでは、高潮、降雨による洪水、都市火災など、発生の頻度が高い災害に遭遇しています。このため、NDMAの最も重要な目的の一つは、国家レベルで災害リスクを軽減し、防災を主流化することです。これには、計画のプロセス、関連する法案や計画の確立などが含まれています。

私は現職において、緊急オペレーション・センターで緊急事態の重要な担い手となって業務に従事してきました。また現在では、緊急事態における救援や人道援助の調整、災害後の評価などを担当しています。さらに、関係機関と協調的な対応をするためのオペレーションの強化や、緊急対応に向けた地方自治体での対応も私の任務となっています。さらに、さまざまな関係者を対象とした災害リスク管理に関する研修などの調整も行っています。災害に強い国というNDMAのビジョンを達成するため、島しょ国における災害管理計画 (IDMP) をコミュニティで実施したり、災害弱者を対象とした防災の啓蒙活動を行ったりしています。また、コミュニティ災害対応チーム (CERT) を設立し、災害対応に関する特別な訓練なども実施しています。

アジア防災センターが、アジア全域のメンバー国において、防災分野におけるイニシアチブを強化し、また研究活動を促進し、防災を推進するために継続的に尽力していることについて、あらためて感謝の意を表したいと思います。モルディブを代表して、2023年度の客員研究員プログラムに参加できたこと、防災についての理解を深める機会を与えていただいたことについて、心から感謝いたします。



ヒューセーノブ・ハビル (アゼルバイジャン)

私は、アゼルバイジャンから来日したヒューセーノブ・ハビルです。アジア防災センターの客員研究員です。私は、アゼルバイジャン共和国の非常事態省アカデミーにおいて、2019年に「非常事態・生命安全工学」の学士号を取得しました。その後、2021年に同アカデミーにおいて、「緊急事態および生命安全工学」の「緊急事態管理」の専門分野で修士号を取得しました。また、アゼルバイジャン国立石油産業大学の博士課程に在籍し、「緊急安全 (分野別)」を専攻しています。現在は、クラ川流域のエブラフ・ネフチャラ地帯で起こりうる洪水災害の評価と適切な対策」をテーマとして、学位論文に取り組んでいます。

2021年からは、非常事態省のアカデミーで講師として働いています。このアカデミーでは、士官候補生 (学生) に「民間防衛」と「大量破壊兵器に対する防衛」の科目を教えています。また、アカデミーでは、6本の学術論文を執筆し、様々な科学雑誌に発表しています。さらに、科学研究に

続き

関連する国際会議やセミナー、関連するイベントにも積極的に参加しています。さらに、ADRCの客員研究員として日本滞在中においては、国際復興フォーラム2024に参加する素晴らしい機会を頂きました。

今回、ADRCの客員研究員プログラムに参加し、日本における災害リスク管理の高度な技術を学びたいと考えています。アゼルバイジャンは、長い歴史において何度も自然災害に直面し、インフラに大きな被害が生じ、住民にも影響を与えてきました。そのため、このプログラムの後、アゼルバイジャンにおいて災害管理システムの新しい手法の検討について、士官候補生を指導することができると思います。さらに、防災の分野において、私自身の知見や経験を成長させるのに役立つと考えています。且つ、現場の担当官として、より自信を持って災害管理に取り組むことができると思います。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった日本政府とADRCに感謝します。また、日本滞在中に熱心にサポートしてくださったADRCのスタッフの皆さんに心から感謝します。



●国際会議への参加

第22回センチネルアジア運営委員会への参加

ADRCは、2024年1月30-31日の2日間、台湾国家宇宙センター（TASA）で開催された第22回センチネルアジア運営委員会に出席しました。会合には、センチネルアジアの事務局を務める宇宙航空研究開発機構（JAXA）、アジア各国宇宙機関、画像解析機関、これら機関とアジア各国防災機関をつなぐ立場からADRCが出席しました。

会議においては、JAXAから会合の趣旨、センチネルアジアの運用の現状と課題等の説明がありました。その他、各国宇宙機関から運用の現状等の発表、アジア工科大学



運営委員会の参加者

や山口大学などから画像解析等にかかる課題について発表がありました。ADRCからは、国連防災機関（UNDRR）などとの連携状況、2023年にトルコとネパールで開催したセンチネルアジアのワークショップの活動内容について報告を行いました。最後に、各機関の発表に基づいて、センチネルアジア行動計画の改定について議論が行われました。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。